



エンタープライズ・マッシュアップ
ビジネス目標の達成をサポート

ビジネス・ユーザーに新たな可能性を もたらす IBM Mashup Center



GIVE YOUR PEOPLE
THE POWER
TO ACT QUICKLY
AND DECISIVELY,
AND THEY CAN
MOVE MOUNTAINS.

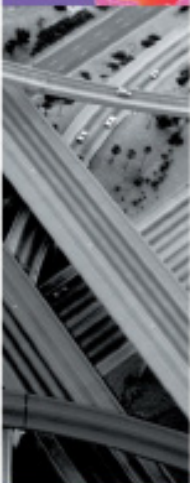


POWER TO THE USER

ビジネス・ユーザーの IT リテラシーが高まるにつれて、ビジネス・アプリケーションの中でもっとさまざまなデータにアクセスし、柔軟に処理したいという要望も大きくなっています。多くのユーザーはインターネット上で高度にパーソナライズ/カスタマイズされた環境を使い慣れています。業務においても同様の操作環境を求めているとしても不思議はないでしょう。そしてこの要望には、応えるだけの価値があります。

適切なツールさえあれば、従業員は企業に大きな戦略的価値をもたらす可能性を持っています。カスタマー・サービス、製品開発、営業や財務などの職種に関係なく、最前線で働く従業員は、お客様と接し、問題を解決し、より良い斬新な方法で製品とサービスを提供しようとしています。素早く、確信を持って行動するための力を与えられれば、劇的な成果を上げることができるのです。

残念ながら、従業員はいつでも情報に基づいた意思決定を行い、ビジネス・チャンスをつかめているわけではありません。多くの時間を割いて、ビジネス・アプリケーション、Web、個人的な保管場所などから情報を収集しています。情報があふれかえり、関連性のない膨大なデータの中から役に立つ洞察を見つけられないこともたびたびあります。次々と発生する短期的なビジネス要求に対し、自由に手に入る広範なリソースを閲覧しているだけでも時間がかかり、身動きが取れなくなることも少なくありません。



IT 部門からサポートを得ることもできますが、その IT 部門も問題を抱えています。新規アプリケーションや既存機能更新への要求が殺到しているため、開発者は、最も効果が期待できる、対象ユーザー数の多いプロジェクトに集中せざるを得ません。特にこの厳しい経済状況下で予算が縮小されるなか、目標が絞られた、小規模なユーザー・グループを対象とする開発プロジェクトについては、コストの妥当性を証明するのが難しい状態です。その結果、多くの有益なアプリケーションが後回しにされ、ユーザーは既存のものでやり繰りすることを求められています。どこかで聞いた話ではありませんか？

新たなアプローチ

しかし、IT チームに過度な負担をかけずにユーザーが必要とする個々のアプリケーション機能を実現する手段があります。それが IBM Mashup Center ソリューションです。このソリューションは Web 2.0 の柔軟性とパフォーマンスをビジネスでも利用できるようにデザインされています。IBM Mashup Center では、エンタープライズ・システムや Web サイトからデスクトップ・アプリケーションや個人のスプレッドシートに至るまで、既存のリソースを変換、加工し、組み合わせることで、ビジネス・ユーザーが自分で必要なアプリケーションを作成できます。

IT 担当者によってデータ・ソースが解放され、使用できるようになれば、ユーザーはすぐにそのデータを再利用および再構成できます。その結果、より適切な判断を下し、発生する要件に即応して、新たな収益拡大策を見つけることが可能になります。

IBM Mashup Center を使用すると、ユーザー自身が一時的なアプリケーションを作成して固有のビジネス要件に対応できるため、その分 IT 部門の負担が軽減され、開発者はより戦略的なエンタープライズ・アプリケーションに専念できます。こうした変化により、すぐに必要な一時的アプリケーションを作成するためのサイクル・タイムが大幅に短縮され、ユーザーは、数カ月ではなくわずか数日で新しい機能を使えるようになります。また、アプリケーション開発に伴うコストの多くを大幅に削減することも可能です。



マッシュアップとは

マッシュアップとは、新しい機能や洞察を得るために、既存のさまざまなソースから情報や機能を組み合わせて作成される軽量なアプリケーションです。ビジネス環境では通常、エンタープライズ・データと Web ベースのデータを組み合わせて特定のニーズに対応します。マッシュアップそのものが、動的なユーザー・インターフェースの中で表示される新しいデータ・ソースまたはアプリケーションとなります。



IBM Mashup Center

Discover and share

Applications

- IBM Lotus Connections
- IBM Lotus Quickr™
- IBM WebSphere Commerce
- IBM Cognos

Web content

- Web sites
- Google Gadgets
- Amazon.com

Customer Name	Address	Zip	Phone
Acme International Company	101 ASPEN ST New York NY	10020	415
Global Finance	123 MIDWOOD DR Lubbock TX	79401	806
World Wide Corp	1789 EMERALD DR Chicago IL	60604	773
Business Tech	45678 SCENIC DR Columbia SC	29206	803
Firm	300 CHAMBERS ST New York NY	10007	212

Tools and platforms

- Portlets
- IBM Lotus® Domino®
- IBM WebSphere® Application Server
- IBM Data Studio

Enterprise information

- Java™ Database Connectivity (JDBC)
- IBM WebSphere MQ
- WSDL
- IBM Information Server
- Web services
- IBM IMS™
- IBM Enterprise Content Management

Enterprise applications

- Enterprise resource planning
- Enterprise content management
- Customer relationship management
- Legacy applications

斬新なやり方で情報を組み合わせて新たな洞察を得る

すべての従業員は、特に日々の業務に関するものであれば、洞察の宝庫といってもいいでしょう。後は、既に持っている情報を整理し、組み合わせて加工するツールさえあればよいのです。

そこを IBM Mashup Center がお手伝いします。IBM Mashup Center を使うことで、ビジネス・ユーザーは、社内外のデータ・ソースにある情報にアクセスして組み合わせ、斬新で実践的なやり方で組み立てて自分の短期的なニーズを満たすことができます。情報とアプリケーション機能は、エンタープライズ・システム、部門アプリケーション、デスクトップ・ソフトウェア、Web など、実質的にあらゆるソースから取り込むことができます。既存の IT リソースをマッシュアップ資産として解放するために、バックエンド・システムとの接続の調整さえできればよいのです。IT 担当者がウィジェットとフィードをカタログに登録して土台を固めたら、ユーザーはすぐにさまざまな情報の組み立てや加工、フィルタリングを始めることができます。

エンタープライズ・マッシュアップが企業にもたらす洞察を理解するために、変動の激しい金融サービス分野で収益拡大の機会を模索する営業担当者の例を考えてみましょう。この担当者は、お客様の口座情報を商品データベース、地域のニュース・ソース、および株式情報と組み合わせたマッシュアップを作成します。これらのデータをすべてリンクすることで、お客様が

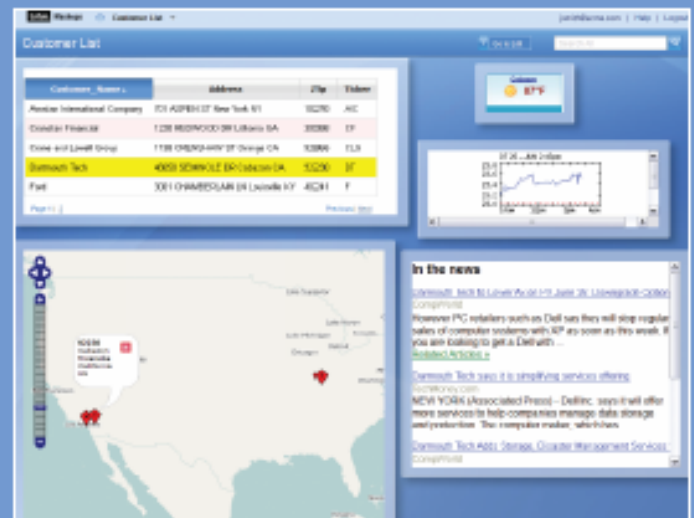


図 1. 複数の情報源を活用し幅広い観点からお客様状況を把握

取引を行う兆候があるかどうかを監視できます。例えば、好調な四半期決算やオフィス拡張の情報と、過去の買い取り傾向を組み合わせます。このマッシュアップから絶えず洞察を得られるため、担当者は営業活動に集中することができ、ビジネスの収益拡大が望めるでしょう。さらに、マッシュアップをカタログに公開して、その洞察を同僚と共有することもできます。

「ほどほどの」アプリケーションを素早く展開して俊敏性を向上

ビジネスの状況は急展開することがあります。企業はいつでもチャンスをつかめるようにし、予期しない障害にも適応できなければなりません。

IBM Mashup Center ソリューションは、発生したビジネス・チャンスに迅速かつ費用効果の高い対応を取れるようお客様を支援します。ビジネス・ユーザーは、新しいマッシュアップを容易に作成し、インターネットと社内の両方のソースからウィジェットとフィードを取り込むことができます。IBM Mashup Center には、そのまますぐに使用できるウィジェットが複数パッケージされています。たとえば、グラフや表の作成、イメージの表示、外部の Web コンテンツの組み込み、外観の定義、およびリッチ・テキスト編集などの機能をユーザーに提供するウィジェットが含まれています。また、パッケージされたウィジェットを補完するために、IT 開発者がエンタープライズ・アプリケーションやその他の社内リソースに基づいたカスタム・ウィジェットを簡単に開発できます。すべてのウィジェットは、ビジネス・ユーザーが画面上でリアルタイムに連携（ワイヤリング）させることができます。さらに、マッシュアップを新しい要件に合わせて簡単に変更することも可能です。

IBM Mashup Center は、ビジネス・ユーザーと IT 担当者に「ほどほどの」アプリケーションを作成できる機能を提供することで、数週間、数カ月かかっていた開発サイクルを数日間、数時間へと短縮し、開発コストの大幅削減に貢献します。



図 2. ウィジェット間の接続をビジュアルに把握・管理できる IBM Mashup Center の直観的なインターフェース

こうした俊敏性が、企業買収の機会を探っているエグゼクティブにとってどのように役立つかを考えてみましょう。主要な競合他社による入札も予想されるため、エグゼクティブは、自社の財政状況を買収対象のビジネス、競合状況、法規制といったことも踏まえながら把握する必要があります。エンタープライズ・マッシュアップを使用すると、既存のウィジェットとフィードを集めて突き合わせ、このような情報すべてをほんの数時間から数日でまとめることができるため、機会を逸することもなくなります。



ウィジェットとは

ウィジェットは、ガジェット、ブロック、フレック、ブログパーツとも呼ばれ、ユーザー・インターフェースに簡単に取り込める単体のアプリケーション機能や動的コンテンツのことを指します。マッシュアップしたウィジェット同士を連携させて新しい機能を作成することができます。

共有と再利用によってイノベーションを促進

よいアイデアは、企業のいたる所から自然に発生します。イノベーションを進めるコツは、こうしたアイデアを捉え、膨らませ、共有できるようにすることです。

IBM Mashup Center は、イノベーションを生み出しやすい環境を作るようデザインされています。Web 2.0 的なコミュニティー機能を備えたカタログが組み込まれ、ユーザーはマッシュアップの共有、発見、再利用だけでなく、マッシュアップに対して評価、タグ付け、およびコメントを行うこともできます。これらの機能によって役に立つ素材がすぐに見つかるため、ユーザーは必要なものを延々と探す必要がなくなります。ただし、素材やフィードが、ちょうど必要としている形式で存在することはめったにありません。そのため、IBM Mashup Center では、IT 担当者が分散しているデータ・ソースの情報を混合、変換、加工し、イノベーションの推進に必要な、的を絞った切り口でビジネス・ユーザーに提供できるようにしています。開発者は、情報のフィルタリング、連結、結合、グループ化、並べ替え、注釈の追加、補完により、個々のビジネス要件に合わせてフィードを調整できます。この情報を変換、加工する機能のおかげで、コスト削減とサイクル・タイムの短縮に直接的な効果がもたらされるのです。

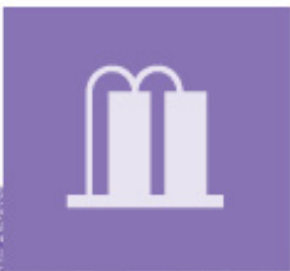
例えば、商品開発エンジニアは、カタログで高い評価が付いている素材計画マッシュアップを検索し、使用頻度の高い設計仕様追跡マッシュアップと組み合わせ、さらに苦情データベースからのフィードを追加することができます。

フィードとは

フィードとは、データをソースからクライアント・アプリケーションに送信するための軽量のメカニズムで、エンドユーザーには REST 形式で継続的に最新情報が提供されま
す。IBM Mashup Center では、中核となるエンタープライズ・システム、外部の Web サイト、スプレッドシートのような個人の資産、ローカル・データベース、基幹業務システムなど、幅広いソースをフィード化することができます。



あるいは、サプライヤーやビジネス・パートナーなど、外部の企業から情報を取り込むこともできます。関連するソースはすべて異なる標準やデータ形式を使用していたとしても、IBM Mashup Center では、IT 担当者が、既存システムに変更を加えることなく互換性のあるフィードに変換することができます。フィードが作成されたら、商品開発エンジニアは IT 担当者と協力してそのデータを正規化したり、部品番号や顧客番号といった特定のパラメータに基づいて情報を抽出できます。これにより、全体像を見据えながら各部分を詳細に検討できるようになります。この革新的なアプローチでは、分散している個々の要素を適切にまとめることで、商品開発エンジニアが設計する電子機器の改良に役立つだけでなく、結果的には品質への取り組みに関する会社の評判を高め、売上の拡大につながります。



IT とビジネスの連携

エンタープライズ・マッシュアップを使用すると、ビジネス・ユーザーと IT 担当者が協力して、既存投資の価値を引き出し、開発コストを削減して、ビジネス要求に迅速に反応できるようになります。そして、IT 管理者はアプリケーションのセキュリティとガバナンスを管理できます。

これは IBM Mashup Center が IT 環境内の情報と資産へのアクセスを簡略化できるようにデザインされているからに他なりません。IBM Mashup Center は、セキュリティ機能やユーザー・ディレクトリー連携など、既存のテクノロジーとの幅広い接続性・相互運用性をサポートしています。アクセス制御リストを使用すれば、IT 管理者は個々のユーザーやグループのアクセス権限を定義し、誰が何を閲覧できるかを維持管理できます。さらに、アプリケーションの使用状況をモニターしてレポートし、ユーザー・アクセスからウィジェットの評価まであらゆるものを追跡できます。

IBM Mashup Center は、REST (Representational State Transfer) をはじめする Web 2.0 技術を活用し、既存の IT 資産をサービス化して再利用・再結合を可能とします。こうした柔軟なエンタープライズ・マッシュアップには、ユーザーがサービス指向アーキテクチャー (SOA) を利用した問題解決になじむきっかけになるという側面もあります。そのため、IT 部門が SOA の価値や SOA の再利用性による効果をユーザーに実証する上でも役立ちます。

エンタープライズ・マッシュアップによって、IT 部門のアプリケーション開発の負担は大幅に軽減されますが、なくなるわけではありません。既存のデータ・ソースをユーザーに解放するカスタム・ウィジェットを作成するには、開発者のコーディング・スキルが必要です。外部ソースとの接続はプラットフォームに依存しないため、開発者は、実質上どのようなテクノロジーをベースとしたソースからでもフィードを取り込み、ウィジェットを作成することができます。さらに、開発ツールでは、そのまま利用可能な一般的なデータ・ソース用のコネクタと、直観的に使えるウィジェット作成用ウィザードが提供されます。そのままではアクセスできないソースからデータを取り込む必要があれば、開発者はプラグインを追加してフレームワークを拡張し、同じ枠組みの中で統合作業を簡略化できます。

なぜ IBM なのか

IBM Mashup Center には、IBM Lotus® Mashups および IBM Infosphere™ Mashuphub の機能が含まれおり、素材の作成から、発見、変換と加工、組み立て、使用というマッシュアップ・ワークフローのすべてのステージをサポートするエンドツーエンドのソリューションを提供します。Web 2.0 の使いやすさ、直感的な操作性、および柔軟性をビジネス対応パッケージに組み込んだ IBM Mashup Center は、IT 資産への一定のガバナンスを保ちつつ、生産性の向上とビジネス・チャンスの獲得をお手伝いします。

IBM Mashup Center は、エンタープライズ・マッシュアップ基盤に特化しており、フロントエンドのプレゼンテーション、データ操作機能、および企業内外のデータ・ソースとの接続機能で構成されます。このソリューションは既存の SOA 基盤の上に構築されたエンタープライズ・アプリケーションを補完します。そして、ユーザーには一時的なビジネス要件に対応したアプリケーションを作成するツールが提供され、その分、IT 部門の負担が軽減されます。



REST とは

REST (Representational State Transfer) は、サービスの定義方法と呼び出し方法を簡略化するネットワーク・アーキテクチャーの原則の集まりです。代表的な REST 形式として RSS と Atom があります。IBM Mashup Center では、ウィジェットとフィードを REST サービスとしてラップすることでマッシュアップしやすさを確保しています。





IBM Software Services for Lotus/Information Management がサポート

ソフトウェア投資を最大限に活用するには、深い製品知識と豊富な実務経験を持ち、高いスキルを備えたサービス・プロフェッショナルによるサポートをご利用ください。IBM Software Services for Lotus/Information Management と選び抜かれた IBM ビジネス・パートナーが、お客様固有のビジネス要件および技術要件を満たすソフトウェア・ソリューションの評価、設計、および導入をご支援いたします。大規模なプロジェクトから短期の業務まで、ケースに応じて多種多様なテクニカル・コンサルティング、研修、およびプレミアム・サポート・サービスをご用意し、IBM のテクノロジーでお客様の成功をお手伝いします。詳細については、以下の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/software/lotus/services

ibm.com/software/data/services

追加情報

IBM Mashup Center の詳細については、以下の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/web20/mashups

以下のサイトで IBM Mashup Center をお試しいただくこともできます。

greenhouse.lotus.com/mashups



© Copyright IBM Corporation 2008

Lotus Software

IBM Software Group One Rogers Street
Cambridge, MA 02142
U.S.A.

Produced in the United States of America
July 2008

All Rights Reserved

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。これらおよび他の IBM 商標に、この情報の最初に現れる個所で商標表示 (® または ™) が付されている場合、これらの表示は、この情報が公開された時点で、米国において、IBM が所有する登録商標またはコモン・ロー上の商標であることを示しています。このような商標は、その他の国においても登録商標またはコモン・ロー上の商標である可能性があります。現時点での IBM の商標リストについては、ibm.com/legal/copytrade.shtml の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

本書に含まれる情報は、情報提供のみを目的に提供されています。本文書の情報の完全性および正確性については最善の努力を払いましたが、本文書の内容は法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負うことなく、現存するままの状態を提供されます。また、本文書は IBM の現在の製品プランまたは戦略に基づくものです。この製品プランまたは戦略は予告なく変更されることがあります。IBM は本文書およびその他関連文書の使用に起因するいかなる損害についても責任を負いません。本文書は、IBM (または IBM のサプライヤーまたはライセンサー) にいかなる保証責任を負わせるものではなく、また、IBM ソフトウェアの使用に際し適用される、プログラムのご使用条件の内容も変更するものではありません。

本書に記載の製品、プログラム、またはサービスが日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、プログラム、またはサービスについては、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。